

PRESS RELEASE

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学 ギャラリー・アクア [堀川御池ギャラリー内]

2012年8月 展覧会のご案内

お問い合わせ: 075-253-1509 infokcua@gmail.com

<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>

「Colors of KCUA 2012 通感

- 京都市立芸術大学芸術学研究室による選抜展 -

展覧会名称	Colors of KCUA2012 通感 - 京都市立芸術大学芸術学研究室による選抜展 -
会期	2012年8月11日(土) ~ 2012年8月19日(日)
開館時間	11:00 ~ 19:00 (最終入場 18:45 まで)
休館日	月曜日
主催	京都市立芸術大学・京都市立芸術大学芸術学研究室
会場	京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 〒604-0052 京都市中京区油小路通御池押油小路町 238-1 (堀川御池ギャラリー内)
観覧料	無料
お問い合わせ	教務学生支援室 事業推進担当 075-334-2204
関連企画(予定)	8月11日 16:00- ギャラリートーク 17:00- レセプション 会期中週末(日程未定): 出品作家企画によるイベント(詳細は随時WEBにて)
WEB ページ	http://www.kcua.ac.jp/gallery/

本展は、京都市立芸術大学芸術学研究室(総合芸術学科および芸術学専攻)の学生が中心となり、本学の制作活動や動向を学外に発信する展覧会です。研究活動と並行して日々制作現場と接している芸術学研究室所属学生ならではの視点のもと、ジャンル横断的に京芸の「今」をリアルタイムに伝えます。

今年のテーマは「通感」です。「通感」とは、「目で見て音を感じる」や「音を聞いて温度を感じる」など、ある感覚器官で受け取ったものが他の感覚器官を呼び起こすような表現を指す、中国文学における修辞法の用語です。本展では、その言葉がもつ感覚間の伝達や共有といった概念に注目し、そこからある作品を見て同時に機能し互いに響きあった五感とは他人と共有することが出来るのか、という問いについて考えます。

「通感」という言葉に込められた、個人を超えて人々が感覚を共有するという新たなコミュニケーションについて考えながら、現代美術の新たな可能性について考えてゆきたいと思っています。

池田 精堂 / IKEDA Seido

1985年 京都生まれ
2012年 京都市立芸術大学院美術研究科彫刻専攻 在籍中

[グループ展]

2010 P & E / アートコートギャラリー (大阪)
2011 京都芸大彫刻院生展「チントンカンカン」/ @ KCUA
2012 京都市立芸術大学作品展 2012 / 京都市美術館

[作家コメント]

例えば、同じ絵を見るという体験において、誰かとする共感ついでの話は曖昧でいい加減であると感じる。同じ色であっても人の視覚の能力によって見え方が違うし、時間や体調にも大きく左右されている。味覚や聴覚にも同じことが言え生活の中でよく話題に上がるが、各々の感じ方がどんな風に、どのくらい違っているのか詳しく知ることは難しい。その他者との間にある、ものを見たり聞いたときの言葉では表せない感じ方の違いを、より具体的に表現できないものか。加えてその実験方法や結果が、私の生活している環境に対してどういった意味があるのかを考えている。



《Vague Sympathy》2011

Will Hall

1980年 イギリス生まれ
2004年 グラスゴー・スクール・オブ・アート (U.K) 絵画専攻 卒業
2012年 京都市立芸術大学美術研究科博士課程 メディアアート専攻 在籍中

[主なグループ展]

2004 「BraveART」/ ロンドン (U.K)
2005 「二人展」/ Transmission Gallery グラスゴー (U.K)
2012 京都市立芸術大学卒業制作展

[作家コメント]

私は目と脳 / 視覚と認知のメカニズムについて制作しています。Stereopsis (両眼視差による立体視) と binocular disparity (視野闘争) を用いたミクスメディア作品の制作に取り組んできました。人間の認知に関わるこうした現象が、脳が意味を判断する際にこれを騙すことで、認識に影響を与える可能性を探求しています。



《Diploiascope》<ビデオインスタレーション> 2011

Michael Whittle

1976年 Northumberland, England 生まれ
2005年 Royal College of Art 卒業
2012年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科彫刻専攻 在籍中

[個展]

2008 「Dark Ages」/ Man&Eve Gallery (ロンドン)
2009 「The Diamond Anvil」/ Daniel Cooney Fine Art (ニューヨーク)
2011 「iQue Esfuertzo! - How hard they try!」/ Gallery MC (ソウル)

[主なグループ展]

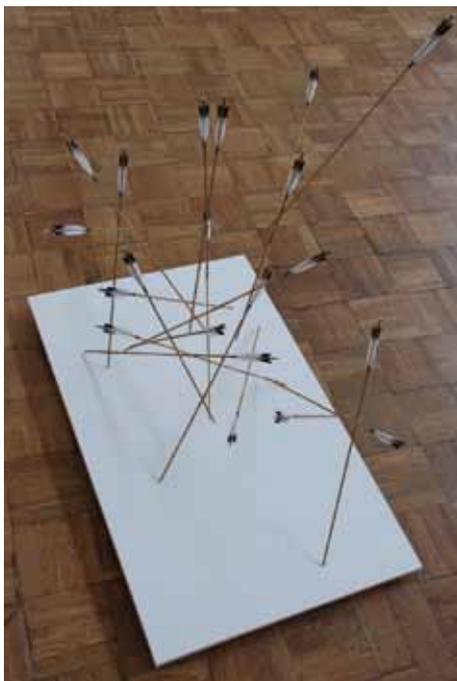
2009 「Huntorama」/ Muzz project space, curated by Robert Platt (京都)
2010 「Flatland」/ APT Gallery (ロンドン)
2011 「Dreams As Well」/ Guo Hongwei and Michael Whittle, H.T.Gallery (北京)

[作家コメント]

科学を通じて理性的に世界を探求したいという人間の欲望と、芸術を通じて創造的にそれに反応する衝動とのあいだで交差する点は、アーティストとしてのわたし自身にとって魅力的な領域となります。しかし、それは同時にわたしたちの感覚と理性的能力のぎりぎりの境界線でもあります。

科学的かつ数学的な創造力と芸術的な隠喩を通じて、わたしたちはわたしたちの限界を乗り越えて意味を探し求め、そして神の領域までも分類しようと、語ることでできないことについても語ろうと試みています。

この方法において、わたしの芸術的な研究は、21世紀のウィキペディアへと通ずる、西暦79年のプリニウスによる偉大なる百科全書的、あるいはまた科学的でもあるプロジェクトを題材にして、大きな物語や天地創造の神話を取り扱っていきます。言い換えるとそれは、わたしたちを現実世界において正しい方向へと導き、わたしたちの生に意味を与え、その起源を探求するという人間の原動力であると言えます。



《memorial》2012

お問い合わせ: 075-253-1509 infokcua@gmail.com

<http://www.kcua.ac.jp/gallery/>



《No Title》2011

上原 浩子 / UEHARA Hiroko

1985年 群馬県生まれ

2012年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻 修了

[個展]

2010 上原浩子展 / 画廊編 (大阪)

[グループ展]

2011 「show-lab」 / 京都市立芸術大学 大ギャラリー (京都)

2012 「FLOWER POWER - Integration with Life」 / Part-of Gallery (香港)

[その他]

2012 アートフェア東京

[作家コメント]

作品表面に皮膚を描写することにより、視覚からの情報だけでその肌の質感や温もりを感じてもらえるような作品を目指しています。また、人体と植物を融合させることで感情の発露や他者との精神的な繋がりなどを表現しています。



《Grange》2010

川田 知志 / KAWATA Satoshi

1987年 大阪府生まれ

2012年 京都市立芸術大学院 絵画専攻 油画 在籍中

[グループ展]

2009 グループ展「無作為サルベージ」 / 同時代ギャラリー (京都)

art.univ2009 関西芸術系大学合同展覧会 / むろまちアートコート (京都)

2010 2人展「点自火」 / 共同スタジオ「GURA」 (京都、伏見)

2012 京都市立芸術大学作品展 2011 / 京都市立芸術大学大学構内

[作家コメント]

壁を支持体にして絵画表現を行います。誰かに使われていたものや無造作に投げ捨てられたもの、そのもの様から表面のみを切り取り、再生、構成することで生み出された奇怪な編物を中心に壁画作品を立ち上げています。



《第5実験 - The Cycle Experiment #5》2011

南 大樹 / MINAMI Daiki

1989年 姫路生まれ

2012年 京都市立芸術大学美術学部美術科 構想設計専攻 在籍中

[グループ展]

2011 京都市立芸術大学作品展 2011 / 京都市美術館

2012 京都市立芸術大学作品展 2012 / 京都市美術館

[作家コメント]

概念であり物体 具象であり抽象 上部構造であり下部構造 自然であり文明
過去と現在 回転 循環 連結器



《立ちションアクティビズム I》
(映像インスタレーション) 2011

日名 舞子 / HINA Maiko

2012年 京都市立芸術大学院 造形構想専攻 在籍中

[グループ展]

2010 第14回フラッグアート展 2010 in 岐阜 (岐阜市)

2011 可塑的な抵抗 / @KCUA

2012 京都市立芸術大学作品展 2012 / 京都市美術館

[作家コメント]

『お父さん！女性用立ち小便器の製造を中止するって、どういうことなの！？』

『売れやしないさ…』

『女は立ちションするなってことよね！？』

『うるさい…！今時、だれが使うっていうんだ！女は黙って座っていればいい！！』

(「再生産される便器」より抜粋)